

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
4
2006

ようこそ、愛大病院へ。



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

手術の実績は件数だけでなく、安全性を確立した信頼される病院へ

手術部 栗田 衛 看護師長



PROFILE

くりたまもる◎1981年八幡浜高等看護学院卒業。愛媛大学附属病院に就職し、手術部に13年間スタッフとして勤務。その後、看護管理室、放射線部、整形外科の師長などを経て、再び手術部看護師長に就任。趣味は仕事と磯釣り。

現在の手術室は全面的に改修が行われ、昨年全ての工事が完了したものです。手術室を部分的に稼働しながら改修することは、全国でも前例のない試みといえます。半分稼働しながら、半分改修工事を進めるという方法をとったため3年を費やしました。その間には工事の騒音があり、患者様にもご迷惑をおかけしましたが、大きな事故もなく、無事完了することができました。既設の手術室10室を改修して、8室の広い手術室とし、新設した短期滞在型手術室2室を合わせて計10室。ベッド数でいうと多い方ではありませんが、部屋は格段に広く

なりました。現在、手術室には様々な医療機器を設置するため、できるだけ広い部屋が理想です。新設した設備の中で注目すべきは、プラズマディスプレイなどを用いた画像システム。全室に50インチのディスプレイを配置して、手術の映像などを映し出します。映像は録画され、2週間ほど保管されます。あってはならないことですが、問題があった場合、後日この映像を確認することも可能です。これからは手術の様子も公表していく時代、手術中の映像は手術部受付やカンファレンス室で患者様のご家族に見ていただくこともできます。

他にも、内視鏡手術用の光学器械をはじめ、手術ベッドや麻酔器など、手術設備では最先端の機器を揃えています。また、生体肝移植などの移植医療症例も行っており、当院は四国で唯一、生体肝移植を行っている病院です。

当院の手術件数は平成17年度で約4000件、昨年度より1割ほどアップしています。

その要因は、新しい手術室になったことに加え、手術室が有効に稼働するようにマネージメントできた結果だと思います。しかし、手術は数だけではなく、より高い安全性を目指さなければなりません。当院では術中の細菌感染を防ぐため、より空気の清浄なクリーンルームを設けています。通常の外気中のホコリは1立方フィートに10万以上あるとされ、当手術室は通常外気の1/1000以下、クラス100の空気清浄度のクリーンルームが3部屋、残りの7部屋もクラス1000の清浄な環境を保っています。

技術面でも、チームで安全を確保することが重要です。医師や看護師をはじめ、チームが一丸となって日々努力を重ねています。そこで、愛媛県の手術看護のレベルアップをしようと、今年から私が発起人となって、愛媛県の手術室看護研究会を立ち上げ、研修会などを行っています。手術は患者様にとって、命に関わる一番大切な時です。そこに自分たちの力が要求されているのですから、患者様が望む手術を提供するために、最善の努力を惜しまずしていきたいと思っています。



多職種連携で患者様主役のやさしい医療をサポートする

医療福祉支援センター 一井 美哉子 看護師長



PROFILE

いよいよ1976年国立大阪病院(現大阪医療センター)附属看護学校を卒業後、愛媛大学医学部附属病院へ。病棟・外来看護を経て、2001年医療福祉支援センターに配属。元気の源は「この人に会って良かったという感動」、「人と語り合うこと」。

患者様とご家族に保健・医療・福祉相談等の総合医療サービスを行うと共に、患者様が満足できる適切で質の高い医療を提供することを目的に、医療福祉支援センターが設置されました。当センターは専任医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務職員で構成されています。主な業務は、①患者サービスの質の向上を図る「総合医療相談と苦情の対応」、②院内の医療チームと地域の他機関・多職種が連携し、継続的な医療や介護を必要とする患者様が退院したその日から安心して生活できるよう支援する「退院援助」、③紹介初診患者様の待ち時間や経済的負担を少なくし大学病院本来の機能を発揮する「FAX紹介患者様の事前予約」、④病院全体で病床を共有し、患者様が早急に入院できるよう空床を利活用する「病床の調整」です。中でも退

院支援は、退院を前に患者様・ご家族を交えて専門性を生かしたサポート態勢が組めるよう話し合うことを大切にしています。これまで950事例の退院支援に関わり、各機関との連携や人的ネットワークの構築、情報提供の重要性を認識すると共に、患者様・ご家族を全力でサポートする関係者の熱い思いとチームワークに在宅医療の限りない可能性を実感しています。

「特定機能病院として高度な診断・治療を行うだけでなく患者様が豊かで幸せな人生をお過ごしになるための支援をさせていただく所です」と言えるように、そして病院と地域をつなぐ「なくてはならない部署」として、眞の意味での「患者様主役」を目指していきます。皆様からご相談やご意見をいただくことが何よりも活動の原動力となります。どうぞお気軽にお声をかけてください。

全国に誇る設備とスタッフで、患者様の回復に向けて治療を行う

集中治療部 部長 土手 健太郎 医師



PROFILE

どてけんたろう○愛媛大学医学部附属病院・集中治療部部長・講師。1981年愛媛大学医学部卒業、医学博士。麻酔科・蘇生科・集中治療を専門に活躍。趣味は金魚を飼うこと。小さい金魚を大きく育てることが楽しみ。

愛大病院の集中治療部は、総合的集中治療室(ICU)を有しており、一般病棟では扱えない重症な患者様を収容して集中的に治療を行っています。その7~8割は外科系の大きな手術後の患者様です。他には、各病棟で突然に急変した方や重症の救急患者が入室されています。多くは呼吸不全、循環不全、代謝不全あるいは多臓器不全に陥った方で、こういった最重要疾患に人工呼吸器、心循環補助器、各種血液浄化法などの先端技術を駆使して治療にあたります。

当ICUはハード面で、全国に誇れる設備が導入されていますし、機能的で患者様1人に対する広いベッドスペースも確保しています。ICUのベッド数は6床で、少ないと思われるかもしれません、HCU(高度治療室)病棟と連携することでなん

とかやりくりしています。ソフト面は看護の充実があり、いかなることにも対応できるだけの看護師がついています。医師は集中治療専任が3名。集中治療専任の医師がいるのは、県下の病院では当病院だけです。さらに、麻酔科蘇生科と共同で運営していますので、大きな手術を受けた患者様の場合、麻酔蘇生を担当した医師が術中の状況を見ながら、そのまま術後管理ができるのもメリットです。当ICUでは患者様の希望やご家族の希望、多くの医師や看護師の意見をふまえ徹底的に話し合い、患者様の尊厳に十二分に留意して治療を行っています。

これからも、優れた施設を最大限に利用して、いい結果を出し、地域の人に親しまれる病院の一翼を担うICUを目指します。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

患者様のご相談・ご紹介等を承っております。ぜひ、ご利用ください。

愛媛大学病院ボランティア「いきいき会」



愛媛県唯一の大学病院をよりよい病院にしたいという県民の希望と、ボランティアを受け入れたいという病院関係者の熱い思いが一体となり、平成16年3月、病院ボランティア「いきいき会」が発足しました。活動内容は、車椅子での介助を含めた病院玄関での送迎、再来機の受付補助、院内

和気あいあいとした雰囲気作りに努めて参りたいと思っています。

この活動への関心や実際に参画してみたいと思われる方は、是非下記までご連絡ください。常時募集を行っています。いきいき会、病院スタッフ一同心からお待ちしております。

病院ボランティア 問合せ先（医療サービス室）TEL:089-960-5181

総合臨床研修センター

研修医をはじめとする医療従事者の臨床研修をサポートするセンターです。医学部、歯学部卒業後の臨床研修希望者や後期研修希望者に、当院および県下の病院の臨床研修に関する情報提供を行っています。

愛媛県の医療に貢献しようとする若き医師からのご連絡をスタッフ一同お待ちしています。

総合臨床研修センター
センター長：高田清式
TEL: 089-960-5098
FAX: 089-960-5131
E-mail:
kenshu@m.ehime-u.ac.jp



栄養療法外来

当外来の対象となる患者様は肥満、高血圧、糖尿病等の生活習慣病や集中的な栄養管理が必要な疾患をお持ちの方です。医師や管理栄養士が、身体の異常、食生活や運動を含めた生活環境等を分析して、患者様の実生活に即したオーダーメイドの栄養療法を持続的かつ計画的に実施していくことを目指しています。

詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

栄養療法外来
問合せ先（栄養部）
TEL: 089-960-5207
栄養療法外来受付
TEL: 089-960-5540



全国国立大学病院給食部門第1位

当院栄養部給食部門では、平成17年度病院患者食検食の結果、総合評価で平均4.9点の得点（5点満点）を頂き、見事全国第1位に輝くことができました。

これは、全国国立大学病院栄養部門会議において、年1回実施される「医療事故防止のための相互チェック」の機会を利用して、普段提供している患者給食の「普通食」の検食を実施し、その評価を受けること。との決定を受け実施したものです。

各大学附属病院へ「検食依頼文」と全国統一の「検食簿」が送付され、相互チェック時の一斉検食が実施され、東大で集計が行われた後、各大学病院へ結果報告がなされました。

評価項目は、1. 食材の質・鮮度、2. 料理の数、3. 献立のバリエーション、4. 盛りつけ・色彩、5. 食事の温度、6. 食器、7. 食札の工夫、8. 総合評価があり、各項目について5段階で評価されました。

栄養部では、全国国立大学病院で第1位の栄誉を頂いたことを真摯に受け止め、更に患者様に満足していただける患者給食を目指して、日々研鑽努力を重ねてまいります。

編集後記

美しい桜も散って、いよいよ新緑の季節に変わろうとしています。愛大附属病院も大橋前病院長が大学理事に昇任し、横山雅好教授が新病院長に就任しました。伝統を守りながらも新たな一步を踏み出します。これまでに増してご支援をお願い申し上げます。

さて、おかげさまで前回のINVITATIONで紹介した抗加齢センターは予想以上の盛況です。また新たにオープンした栄養療法外来も順調な滑り出しています。この外来をサポートしている栄養部は昨年病院食の相互評価で大学病院中全国第一位に輝きました。このように当院は職員が一丸となって医療を盛り立てています。皆様の愛大病院をこれからもよろしくお願ひいたします。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙の人
病院長 横山雅好（泌尿器科学教授）



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>